

白鬚神社

① 所在 庄原市東城町森2352番地

② 祭神 さるだひこのみこと 猿田毘古命 いざなぎのみこと 伊邪那伎命 あめのうすめのみこと 天宇受売命 かぐつちのみこと 可遇突智命

うえつつのおのみこと 上筒男命 なかつつのおのみこと 中筒男命 そこつつのおのみこと 底筒男命 いちきしまひめのみこと 市杵島姫命 あめのこやねのみこと 天児屋根命

おおものぬしのみこと 大物主命 とよとみのみこと 豊聡耳命 崇徳天皇

(相殿の神)

いざなのみこと 伊邪那美命 いなせはぎのみこと 稲背脛命 わたつみのみこと 綿津見命 やそまがつひのみこと 八十禍津日命 ことしろぬしのみこと 事代主命

いかづちのかみ 雷之神 おおやまつみのかみ 大山津見神

③ 例祭 10月26日

④ 境内地 830坪

⑤ 宝物 太刀(領主 宮高盛公寄進) 長刀(大坂の陣落人 石田平兵衛寄進)

⑥ 由緒 創建年代は不詳であるが、古代悠遠の鎮座なり。社家伝説によれば、往古群内に数社ありし大氏神の一社にして地方開拓の始祖なり。白鬚大明神の古称あり。天文年中(1532-55年)領主であった宮高盛公が太刀一振を寄進。慶長年中(1596-1615年)東城城主勘解由孫六 太刀一振等の寄進あり。社殿は元龜元年(1570年)再建。明治13年二ノ宮母里神社(旧称、若一王子社)を合祀し、現社殿を再建。

⑦ 伝承 児島高德義拳の際、飯山(神社背峰)に登り隠岐島を臨み船玉神を祀り海路の平安を祈り、後に小社を山麓に造り、文和年中(1352-56年0)白鬚大明神と称し祀ると伝える。

⑧ 社叢は庄原市の天然記念物に指定されている

⑨ 各集落(行政区)単位に8つの宮詣りの講が存在し、3月~10月の各月の月次祭に順番に参拝し、祭典の後、直会(なおり)を行うならわしがある。

⑩ 春祭り、秋祭りでは宮司宅より行列を組み神祇がおこなわれ、秋祭りでは御旅所への巡幸もある。



荒神社



神葬祭家若宮を祀る祖霊殿



ご神木 連理の杉



